

平成28年度 都城市立菓子野小学校 自己評価書

※4段階評価（4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

評価項目	評価指標等	方策・手立て	自己 評定	結果の考察・分析及び改善策等
1 基礎学力の向上	① 基礎的・基本的学習内容の確実な定着	○ 全国学力学習状況調査、県学力状況調査等での成果アップ ○ 単元末テスト、学期末テスト等での目標達成	3	○ 読む力を培う国語科学習指導の研究を通して、授業の工夫・改善を行い、言語活動の充実が図られてきた。 ○ 各種学習状況調査の結果を全職員で分析し、指導に生かすことができた。今後、CRT結果も生かしていく。 ○ 各学級で個に応じた児童への指導を心がけてきた。今後、さらに指導の工夫を図っていききたい。 ○ 学校と家庭が連携し、児童の読書意欲を高めていったが、個人差があり、さらに意欲を高めていきたい。 ○ 「家庭学習の手引き」を配付し、指導を行ってきた。「家庭学習週間」も設定し、保護者にも目を通してもらうなどして意識化を図った。 ○ 家読はノーメディアデーに併せて推進した。さらに実践化が進むように啓発をしていきたい。 ○ ノーメディアの必要性を保護者に伝え、家庭での実践を推進していく。
	② 読書活動の推進	○ 児童の読書意欲向上 ○ 読書の質の向上 ○ 読み聞かせの全学年実施	3	
	③ 家庭学習の充実	○ 家庭と連携した家庭学習の習慣化 ○ 各家庭での家読の実施 ○ ノーメディアデーの推進	3	
2 豊かな心の育成	① 道徳教育の充実	○ 思いやりの心の醸成 ○ 「特別な教科 道徳」の実践 ○ 環境美化の推進 ○ 花栽培による心の育成	3	○ 道徳の時間の指導は、各学級で確実に指導し、10月のオープンスクールでは、道徳の授業参観を実施した。保護者や祖父母、地域の方々に参観していただいた。 ○ 児童が毎朝、自主的なボランティア活動を行うことができた。継続していききたい。 ○ あいさつや返事、言葉遣い等については、繰り返し指導をしてきた。特に、あいさつは立ち止まって正面を向いてという意識が育ってきている。さらに、整理整頓、無言清掃の徹底を図っていく必要がある。 ○ 全児童を全職員で指導する体制をとり、職員間で連携しながら指導にあたることができた。 ○ 地域の方を招いたり地域に出かけたりした授業や全校で遊ぶ集会などを実施し、多くの人と交流を図った。今後も感動体験を教育活動において工夫したり、学級活動等の指導の工夫・改善を図っていききたい。
	② 基本的な生活習慣の徹底	○ 規範意識の高揚 ○ 「菓子野っ子よい子の1日」の徹底 ○ 気持ちよいあいさつや正しい言葉遣い ○ 無言移動、無言清掃	3	
	③ 人権教育の充実	○ お互いを認め合う心の育成 ○ 自己肯定感の高揚 ○ 指導法の工夫・改善	3	
3 健康安全教育の推進	① 体力向上プランの確実な実施	○ 運動に取り組む環境整備 ○ 体力テストの結果	3	○ 持久走や縄跳びを旬間として、業間活動に位置付け、実践した。新体力テストの結果から次年度へ向け、上体起こし、50m走、ソフトボール投げの種目は、さらに指導の工夫を行っていく。 ○ 「早寝・早起き・朝ごはんチャレンジ週間」を設定し、家庭での実践化を図ったが、早寝ができていない。家庭と連携をし、徹底していく。 ○ 立腰が昨年度よりできていない。年度当初に指導を強化し、学習中の姿勢がしっかり身に付くようにする。 ○ さらに、防災体制の徹底を図っていく。 ○ 安心・安全メールで緊急事案等について情報を発信できた。 ○ 「弁当の日」は、計画通りに確実に実践できた。全児童が各家庭で意欲的に取り組むことができた。
	② 健康安全教育の充実	○ 「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化 ○ 立腰指導の徹底 ○ 防災体制整備による安全確保 ○ 緊急時等の連絡体制整備	3	
	③ 食育に関する指導の推進	○ 「子どもがつくる弁当の日」の実践 ○ 栄養指導の充実	3	
4 ふるさと学習推進	① 地域の教育資源の積極的な活用	○ 地域と関連させた総合的な学習の時間「きらめきタイム」の充実 ○ 伝統芸能の継承	3	○ 各学年の学習活動で地域の人材・素材を生かした学習を行うことができた。 ○ 保存会の協力のもと、3、4学年が俵踊りを練習し、運動会、庄内ふるさとまつりで披露することができた。 ○ 学校支援ボランティアを活用する機会がなかった。他校例を参考に活用を図っていききたい。 ○ そよかぜグループの協力で家庭教育学級では、そば収穫・そば打ちを実施し、有意義な体験の機会となった。 ○ 各地区の祭等や庄内地区ふるさとまつりへの参加も多かった。 ○ ホームページは学校の様子や給食のメニューをこまめに更新することができた。また、学校便りの充実を図っていききたい。
	② 地域や各関係機関と連携した体験活動の実施	○ 学校支援ボランティア組織の活用 ○ 各関係機関と連携した体験活動 ○ 地域行事への積極的参加	3	
	③ 教育活動の外部発信とPCネットワークの活用	○ 学校だよりの発行 ○ ホームページの充実	3	
5 信頼される学校づくり	① 教職員の資質向上	○ コンプライアンスの遵守	3	○ 研修や日常の声かけ等を徹底し、コンプライアンス遵守の徹底を図った。 ○ きめ細かな対応を心がけ、さらに、家庭、地域と連携を図っていく必要がある ○ 警察署、消防団等を活用し、児童にとって身近な防災を学ぶことができた。 ○ 学校運営協議会を計画通り実施することができ、本年度は給食交流も実施できた。 ○ 中学校や幼稚園・保育園との情報交換を図ることができた。今後も連携をとり、交流も深めていく必要がある。
	② 家庭・地域との連携・協同	○ 家庭・地域との密な連携 ○ 地域と連携した防災		
	③ 学校運営協議会の充実	○ 学校運営協議会を活用した実践		
	④ 一貫教育の充実	○ 庄内地区小中一貫教育、幼保小連携の推進		

次年度方向性についての校長所見

○ 本年度は、大枠では期待通り或いは期待に近い成果を収めた。しかし、学習の基本である立腰や読書習慣、生活や健康の基盤である「早寝・早起き・朝ごはん」については、学校で継続して指導するとともに保護者・PTAと連携し、定着させていきたい。次年度へ向けて、取り組むべき柱である「基礎学力の向上」「豊かな心の育成」「健康安全教育の推進」「ふるさと学習の推進」「信頼される学校づくり」について評価指標や手立て・方策を見直すとともに、さらに教育活動を充実させて、本校のめざす児童像へと児童を育てていきたい。